

## 024 最初の宮清め(ヨハネによる福音書 2:12~22)

12 この後、イエスは母、兄弟、弟子たちと（カナの婚礼を終え）カファルナウムに下って行き、そこに幾日か滞在された。

→カファルナウムは海拔マイナス 200m の湖畔の町、税の徴収を強行したローマ兵の拠点基地で、イエスは成人するとナザレからこの地に移った。

### <イエスのメシア宣言>

13 ユダヤ人の過越祭が近づいたので、イエスは（ユダヤ人の男子として過越の祭りを祝うために）エルサレムへ上って行かれた。

→公生涯に入ってから、初めてのエルサレム訪問である。

→第一の月の十四日の夕暮れが主の過越である（レビ記 23:5）。

→過越祭（ペサハ）：Pessach（ヘブライ語）、Passover

→この祭りはエジプトで奴隷状態にあったイスラエルの民を神がどのように救い出したかを記念して祝われる。第一の月は、ユダヤ暦で「ニサンまたはアビブ」と呼ばれ、3月中旬から4月中旬に当たる。

→出エジプト記 12:13、23、27



### 太陽暦・ユダヤ暦・バビロニア暦

太陽暦	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月（ヘブライ暦）	第一の月	第二の月	第三の月	第四の月	第五の月	第六の月	第七の月	第八の月	第九の月	第十の月	第十一の月	第十二の月	
ユダヤ暦	ニサン Nisan, Nissan	イヤール Iyyar	シバン Sivan, Sivan	タムズ Tammuz	アブ Abh, Av	エルール Elul	ティシュリ Tishri	マルヘ Shubän Marcheshvan	キスレウ Kislev, Kislev	テベット T'betheth	シュバット Sabbat	アダール Adar, Adar	
バビロニアの月名 (): カナンの古称	ニサン (アビブ)	イヤール (ジウ)	シワン	タンムズ	アブ	エルール	ティシュリ (エタニム)	ヘシュワン (プ)	キスレウ	テベト	シェバト	アダール	
主な行事		七週間 14~21 過越祭(ペサハ) 除穢祭		七週祭(シャブオット) 五旬祭(ペンテコステ Pentecoste ギリシア語) ※ユダヤの三大祭: 過越祭、七週祭、仮庵祭			1: 新年 10: 大贖罪日 15~21: 仮庵祭(スコット)			25: 宮清めの祭 (25日~8日間)			

- ユダヤ暦は、日本の旧暦と同じく、月の満ち欠けを基準に月を決める方式（太陰太陽暦）です。
- ユダヤ暦は、一日が日没（夕方）に始まり、次の日の日没（夕方）に終わります。それは、聖書の創造の記事に「夕べがあり、朝があった」（創世記 1:5他）と記されているからです。
- イスラエルでは普段の生活には、西暦も使っていますが、ユダヤ教の祝祭日や公式行事はユダヤ暦によって決められています。
- ユダヤ暦は天地創造を起点にして数えることになっており、西暦+3760年（西暦よりも3760年長い）となる。

【参考】十五夜(日本) 旧暦8月十五日、新暦9月中旬~十月上旬 ⇔ ユダヤ暦: 第七の月(ティシュリ)の15日は仮庵祭 / 神嘗祭、新嘗祭、大嘗祭

▶十五夜の時、日本人は伝統的にしばしば仮庵を建て、そこに家族や親戚が集まり、その時期の生り物（団子、里芋、梨等）を供えて、「中秋の名月」を眺めた。古代イスラエルにおいては、北王国イスラエルでは第八月十五日に、南王国ユダでは第七月十五日に、仮庵を建て、そこに家族や親戚が集まった。そして、その時期の生り物を供えて、名月を見ながら、その年の収穫を祝った（仮庵祭）。

→レビ記23:39~43  
なお第七の月の十五日、あなたがたが農作物を収穫するときは、七日の間主の祭りを祝いなさい。初日には八日目にも安息の日を守りなさい。初日には立派な木の実、なつめやしやの葉、茂った木の枝、川柳の枝を取って来て、あなたがたの神、主の御前に七日の間、喜び祝う。毎年七日の間、これを主の祭りとして祝う。第七の月にこの祭りを祝うことは、代々にわたって守るべき不変の定めである。あなたがたは七日の間、仮庵に住まねばならない。イスラエルの土地に生まれた者はすべて仮庵に住まねばならない。これは、わたしがイスラエルの民をエジプトの国から導き出したとき、彼らを仮庵に住ませたことを、あなたがたの代々の人々を知るためである。わたしはあなたがたの神、主である。

- ▶また、日本には、古来より、「おはつほ」と言って、収穫の初穂（穀物や果物、その他製作した作品等）を神に第一に掲げる風習がある。
- ①毎年十月（旧暦：九月）に伊勢神宮を中心に行われる「神嘗祭（かんなめさい）」は、収穫の初穂を神に掲げる祭りである。この時、伊勢神宮では、使われている衣や机、道具等がすべて新調される。ユダヤ教では収穫の祭りである「仮庵祭」が行われる「ティシュリ」の月（太陽暦：9~10月）は、新年である。このような風習は、古代イスラエルでも同様に行われていた。→（出エジプト記34:26a）あなたは、土地の最上の初物をあなたの神、主の宮に携えて来なければならない。
- ②そして、「神嘗祭」の約一か月後、皇室を中心に「新嘗祭」という行事（新嘗祭の前日に綾綺殿-りょうきでん-で鎮魂祭が行われる/毎年11月23日、勤労感謝の日）に宮中三殿の近くにある神楽殿-しんかでん-にて執り行われ、同じ日に全国の神社でも行われる/午後6時に始まり、午前1時頃に終了）が行われる。これも神嘗祭と同じ、収穫を捧げる収穫祭で、天皇は収穫の一部を神に掲げ、その後それを神前で食す。天皇はこれによって、国民を導く指導者としての役割を神から授けられるのである。古代イスラエルでも、イスラエルの指導者たちは神前で食することをを行った。→（出エジプト記24:11）神はイスラエルの民の代表者-モーセはアロン、ナダブ、アビフおよびイスラエルの七十人の長老-たちに向かって手を伸ばされなかったので、彼らは神を見て、食べ、また飲んだ。
- ▶ちなみに、③天皇の即位後初めて行う新嘗祭を「大嘗祭（たいじょうさい）」と呼ぶ。この大嘗祭の時には、収穫を捧げるための特別な仮庵が建てられる。

※新嘗（にいあえ：新しい穀物の御馳走）⇒新嘗（にいあめ）

14 そして、神殿の境内（→宮の中＝異邦人の庭）で①牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って②両替をしている者たちを御覧になった。

15 イエスは縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、  
16 鳩を売る者たちに言われた。「このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない（⇒メシア宣言）。」

→神殿の異邦人の庭で、巡礼者の便宜を図るために、いけにえの動物を相場より高値で売っていた（祭司たちは律法に定められた犠牲の動物の売買で大金＝所場代等＝を儲けていた）。イエスは、いけにえを献げることを否定しているのではなく、その目的がゆがめられ不正に利用されていることを怒っておられる（神殿での礼拝をファミリービジネスに変えていた）。

→営業許可を与えていたのは、ローマ帝国支配下のユダヤにおける最高裁判権を持った宗教的・政治的自治組織「サンヘドリン」であった。

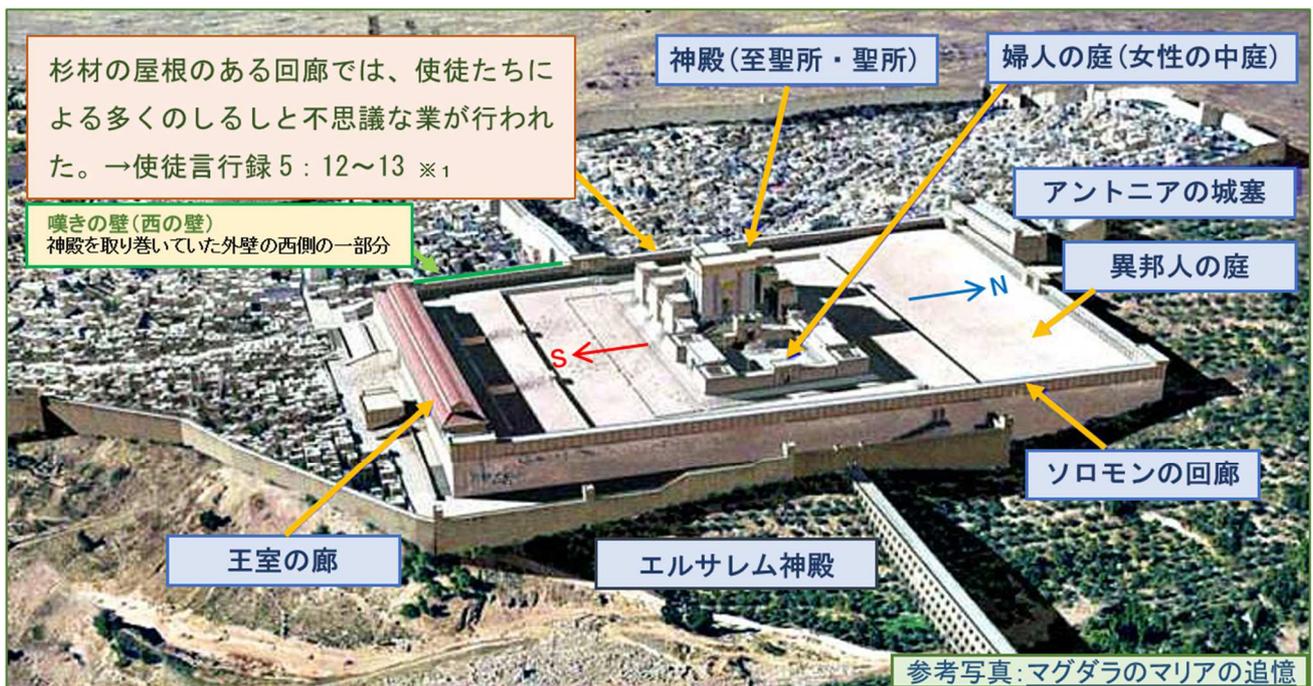
→ローマのデナリオン銀貨はローマ帝国の初代皇帝アウグストゥス（在位：BC27～AD14）の像が彫られており、神殿税（成人男子は二分の一シケル＝2デナリオン、出エジプト記30：13）を払うのに使用できなかったため、両替商がいた。

17 弟子たちは、「あなたの家と思う熱意がわたしを食い尽くす」と書いてあるのを思い出した。

→そのとき弟子たちは、「神の家を思う熱心（→真の礼拝を回復することへの情熱）が、わたしを焼き尽くす」（詩篇69：10）という、聖書の預言を思い出したのです（LB）。

→イエスのうちに神の家を愛する情熱が燃えて、イエスは自分を焼き滅ぼしてしまわれる。弟子たちもこのようなイエスの情熱をひしひしと感じたのである。

#### 【参考】エルサレム神殿



#### <ユダヤ人たちの視点>

18 ユダヤ人たちはイエスに、「あなたは、こんなこと（→メシアとしての行動）をするからには、どんなしるし（→メシアであることを証明する奇跡）をわたしたちに見せるつもりか」と言った。

→ユダヤ人たち：最高法院に属する議員で、祭司職に就き、ファイリサイ派や他の指導者たちに影響力を持つユダヤ教教師（神殿を管理している人たち）

19 イエスは答えて言われた。「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」

→イエスは自身の肉体—実際の神殿ではなく—が滅ぼされ、三日後、神によって復活すると主張した(2:21)。

20 それでユダヤ人たちは、「この神殿は建てるのに四十六年もかかったのに、あなたは三日で建て直すのか」と言った。

→ヘロデ大王による神殿拡張工事は、ヨセフスの記録によれば、ヘロデの第18年(BC20~19)に開始、それから、46年後は、AD27~28年であるが、実際にはAD64年に完成した。

## 【参考】 神殿

### 第一 神殿 (ソロモン神殿)

BC1000年頃、イスラエルの二代目の王ダビデが建設を計画し、その息子のソロモン王(在位:BC971~BC931頃)によってエルサレムに建設された神殿(ソロモンがイスラエルを支配してから4年目に建設を始め7年後に完成した)。

BC587/586年、バビロン(バビロニア軍)のネブカドネツアル二世がエルサレムを占領(エルサレム攻囲戦)、ユダヤ人はバビロンに捕囚となり、神殿も破壊された。

### 第二 神殿 (エルサレム神殿、ヘロデ神殿) →ヘブライ語で「ヤハウエの家」と呼ばれた。

BC539年頃、ペルシアのキュロス二世がバビロンを占領、バビロンに捕囚となっていたユダヤ人は解放され、帰国と神殿の再建を認めた。バビロンのネブカドネツアル二世によって破壊されたソロモンの第一神殿に代わって、BC515—ダレイオス王の治世第六年(BC516年)—に、エルサレムの神殿の丘に建設された神殿(近隣の民による絶えざる妨害により、神殿再建の事業はBC536年から520年まで中断を余儀なくされた→エズラ記4:4~5、6:14~15)。後、ヘロデ王(在位:BC37年~BC4年)がBC20年から増改築工事を開始し、AD64年によろやく完成したことから、ヘロデ神殿とも呼ばれる。AD70年、ローマ軍によって破壊され、現在は「嘆きの壁」と呼ばれる外壁の一部が残っている。

AD7世紀末には、この地にイスラム教のモスク(アクサ・モスクおよび岩のドーム)が建てられた。

### 第三 神殿 (未完成)

ユダヤ人がエルサレムの「神殿の丘」に再建しようとしている神殿。

大苦難(患難)時代の後半の3年半が始まる時点では、第三神殿は建設されている(ただ、預言されていない)。



出典: 毎日新聞

## <弟子たちの視点>

21 イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。

22 イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、(旧約)聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。

→弟子たちも、イエスの言葉の意味を理解できなかった。もちろん、メシアの死は、弟子たちの考えの中には全くなかった。

イエスは答えて、「わたしのしていることは、**今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる**」と言われた(ヨハネによる福音書13:7)。